

神戸ジュコム跡地の石垣前で記念撮影に納まるロバート・グリーンバーグさん(左から2人目)と家族ら＝神戸市中央区山本通1



豪在住の男性、3世代で「子、孫に語り継ぐのが責任」

両親「命のビザ」で迫害逃れ、85年前誕生

第2次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から「命のビザ」で日本へ逃れたユダヤ人難民の中に、神戸で産声を上げた男性がいた。暮らしたのは亡命先が見つかるまでの4カ月間。もちろん当時の記憶はないが、「両親と私が生き延びることができたのは奇跡。子や孫に神戸のことを語り継ぐのは私の責任」と、3世代の8人を連れ、85年ぶりの「帰郷」を果たした。

(若林幹夫)

ユダヤ難民の子故郷神戸に

男性はオーストラリア在住のロバート・グリーンバーグさん(85)。

父オスカールさんと母ドラさんは、ポーランドから近接するリトアニアへ決死の避難をした。

そこで日本領事館の外交官だった杉原千畝が独断で発給した「日本通過ビザ」を入手。シベリア鉄道や船を乗り継ぎ、日本を目指したユダヤ人難民は数千人に及んだという。

一方、ナチス・ドイツによるホロコースト(ユダヤ人大虐殺)では推計600万人が強制収容所などで虐殺されたとされる。ユダヤ人コミュニティ



生まれたばかりのロバート・グリーンバーグさん。母ドラさんに抱かれている＝1941年に神戸で撮影(提供写真)

があつた神戸に両親がたどり着いたのは1941年2月。ロバートさんが生まれたのは、その約1カ月後だった。

神戸で難民の救済拠点になつたのが、北野地区にあつた「神戸ユダヤ共同体(神戸ジュコム)」だ。食料や住まいを提供し、亡命先が見つかるまでの生活を支えた。父のオスカールさんは、この団体の会計係を務めていたという。

そして同年7月、家族3人は船でオーストラリアに向かった。両親は亡くなったが、ロバートさんは今もシドニーで暮らしている。

孫ら3世代の8人と神戸を訪れた。生後4カ月で離れてから初めてだった。神戸を経由した逃避行の物語を聞いていた息子のダニエルさんは何度も来日し、いつか父を連れてきたいと思つてきたという。神戸で救済に携わつた人たちの子孫らでつくる「神戸ユダヤ難民研究会」の関係者が、ゆかりの場所を案内してくれた。

ロバートさんが生まれた「神戸万国病院」(現・神戸海星病院)があつたとき、神戸市立中央小学校のそば。神戸ジュコムがあつた神戸電子専門学校。そこには今も当時の石垣が残つていた。

ロバートさんは、生まれた直後の写真を手にし「両親はいつも神戸のいい思い出を語っていた。住む場所は清潔で、食べ物もよかつた。みんな親切で歓迎されていると感じたようだった」と話し、神戸に対して「ベリーポジティブ」と繰り返した。

神戸再訪の締めくくりに、神戸ユダヤ難民研究会のメンバーらとの交流会にも参加した。

「神戸は美しい。もっと早く来ることができればよかった。両親が神戸で親切にしてもらったということが、私にとって重要な意味がある」と語った。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 空欄に当てはまる語句を本文中から抜き出して書きましょう。

第2次世界大戦中、[①]の迫害から逃れる[②]]人難民のために、日本の外交官[③]]は独断で「命のビザ」を発給し、数千人の命を救った。

2 傍線部について。ロバート・グリーンバーグさんの両親の「逃避行」の道のりをたどってみましょう。

元々住んでいた国[①]] → [②]]に避難、ビザ入手 → [③]]でロバートさん誕生 → [④]]へ

3 ロバートさんが神戸に対して繰り返し語ったことばを抜き出しましょう。 []

